

## ■小中一貫教育に関する課題

## 《教職員の意欲と資質能力の向上》

<b>(教職員の意識改革等に関わる課題)</b>	
管理職や教職員間の共通認識の醸成	職員室が複数ある場合、共通理解の深まりが心配 人事異動により小中教職員の意識の統一
小・中学校が接続する学年等以外を担当する教職員の意識向上	
成果や課題の可視化と関係者間での共有、そのための手法の確立	
強力なリーダーシップをもつ校長先生の確保と育成	
<b>(人事・予算面に関わる課題)</b>	
教員の所有免許の関係で兼務発令を拡大できないこと、兼務発令の趣旨に関する教職員の理解	
小・中学校間のコーディネート機能の充実	
必要な予算の確保、小学校費・中学校費の一体的な運用	

## 《保護者や地域住民との連携強化》

<b>(地域に関わる課題)</b>	
地域のつながりの希薄化等	社地域は、小学校から附属を希望する保護者が増加すると考えられ、より地域が分裂する。 小学校単位の地域が長い目で見ると消滅する。学校教育には地域の支えが必要であるが希薄になる。 学校がなくなると地域のまとまりもなくなり、その地域はさびれていく。 統廃合によって地域の過疎化や市内の経済格差の拡大、さらには災害から身を守れる場所がなくなることになる。 地域と一体になって運動会や様々な行事をしてきたが、無くなってしまうことは、地域にとっても大きな損失。 学校が地域住民の協力の下に行ってきた郷土学習の火を消すことになり、地域の伝統行事の継承に困難をもたらすことになりかねない。

## 《児童生徒の負担の軽減》

<b>(児童生徒に与える影響)</b>	
転出入者への学習指導上・生徒指導上の対応	
児童生徒の人間関係が固定化しないような配慮	
中学校における生徒指導上の問題の小学生への影響	中学生の良い面だけでなく悪い面もたくさん見るので悪影響となる。
小学校高学年のリーダー性、主体性の育成	6年生が最上級生として活躍する場が無くなり、大きな成長の機会が失われる。
一人ひとりに行き届いた指導	小学校が遠くなることで不登校が増加する懸念がある。 児童一人当たりの教員が減少するので、いじめが増加する懸念がある。

きめ細かい指導やいじめ、不登校の問題に対応できる道筋を立てていない。

子どもたち一人一人に行き届いた教育ができなくなる。

### その他の課題

普通の学校の子より満足感や自信は低く、イライラや疲れやすさは高いという調査結果が発表されている。

中一ギャップが解消されたとしても、小五ギャップが生まれる可能性がある。

様々な保育園から児童が集まってくるため、小学一年生が落ち着かなくなる。

7年生が中学生としての自覚を持つ工夫

部活動が行われるため、小学生は放課後、運動場を利用できない。

遠距離通学により、学校終了後の遊びの時間や、勉強の時間の確保ができない。

学校が遠くなり、休日や放課後に学校に遊びに行けなくなる。

地域の間人関係が希薄になりつつある中で、子供の育つ環境がより弱くなる。

### (スクールバスに関わる課題)

#### 運行に関わる課題

教育活動はスクールバスの時間帯に制約され、指導も中途半端なものになる。

登下校時のバスに乗り遅れた際はどうするのか。

バスの時刻に遅れると、保護者が送迎することになり、時間的、経済的なロスが増える。

部活に参加する生徒と、しない生徒用に複数回バスを配車されるのか。

#### 児童生徒同士・地域の人とのコミュニケーション、運動量に関わる課題

スクールバス通学により、子供の大きな楽しみである友達とする道草とそれを見守る地域の大人の関係はどうなるのか。

公民館等での集合解散の場合、見守り隊等の手配と配置はどのように考えているのか。

子どもの運動量が減る。

### (学校行事に関わる課題)

#### 運動会、部活動等

小中一緒の大規模な運動会となれば、出場種目も限られる。

昼休みや放課後に小学生と中学生が同時にグラウンドを使うのは危険。

部活動のクラブ数が少ない。

学校行事に地域の皆さんのバックアップがあるからこそ、運動会や茶摘みなどのイベントが充実したものになっているが、学校が大規模になれば排除される。

### (学校の位置、設備等)

北は土砂崩れの危険があり、南は川が氾濫すれば、子供たちの避難場所はどこになるのか。

実際土砂崩れが起きたのはグラウンドですが、そこを今後も使用すること、また、生徒が運動場を利用するときに、歩道橋という案があるそうですが、県道を越えることは、危険がともない、無理があるように思う。

グラウンドは地滑りの危険性がある現東条中のグラウンドに、一貫校から道の上に橋を架けて歩いて使って使用するというのですが、小学生は校舎のそばにグラウンドがなければ使えません。また、現東条中は地滑りの危険性があると言っておきながら、グラウンドはそのまま使用することは到底理解不能です。

移設場所の点ですが、文化会館を取り壊してとの案ですが、敷地の狭さ・グラウンドへの移動の危険性・監督体制の不備など検討すべき点が多々ある。

心配な点は建物の土地の狭さと運動場が元中学校の高台にあることです。

統廃合は、まさに一極集中化であるが、これは危機管理上問題である。分散型であれば、万が一の時でも、早い避難等の対応が可能であるし、被害が出たとしても、少なく留めることができるといわれている。

どうしても小中一貫教育を推進しなければならないなら、併設型でその教育を展開したらよい。

一体型でないと乗り入れ授業は難しい。

## 《教職員の過度な負担の軽減》

### (一貫教育の実施に伴う準備に関わる課題)

9年間の系統性に配慮した指導計画作成

小・中学校合同の行事の内容設定

時間割や日課表の工夫、施設の使用時間調整

教師の持ち時間数の調整(教科担任・乗り入れ)

先生の授業時数の公平化

小学校間の取組の差の解消

### (一貫教育の実施に伴う確保等に関わる課題)

小・中学校間の打合せ時間の確保

打ち合わせに時間がとられ、教材研究の時間が無くなり、授業の質が落ちる。

小・中学校合同の研修時間の確保

学校を閉じる準備をしながら、一貫校でのカリキュラムづくりと準備で教員が忙しくなり、子どもから目と心が離れる。

小・中学校の交流を図る際の移動時間・手段の確保

教職員の負担感・多忙感の解消、負担の不均衡

異動の範囲も広くなり、教職員の負担が増える。

大幅な定員増や部活動指導の大胆な軽減などが行われない限り、打合せなどで教職員の忙しさは限界を超える。

規模が大きくなり学校運営の負担が大きくなりすぎる。

## 《小中一貫校の取組成果の評価と検証》

### (その他)

教育的効果の検証

教育目的、発達段階の全く違う小学生と中学生を一つの学校にしてしまうのは大きな疑問を感じざるをえない。

小学校と中学校とでは、教育の内容も方法も大きく異なる。免許を持たない小学校教員が中学生に授業をしても、中学校教員が小学生に授業をしても、子どもの心に響かず、大きな成果が上がるとは思えない。

十分な検証がされていないものを導入することが不安

説明等

保護者、地域の方々と議論を重ねて、理解を得なければならない。

単学級化の良い点・悪い点をもっと精査してから保護者等に説明すべき。

東条地域で小中一貫校で教育しなければならない課題が見つからない。

一貫と言いながら9年を3つになぜ分けるのか。

どんな学校になるのか。入学式、卒業式、部活動、生徒会はどのようにするのか。

「中一ギャップ」は大げさに言う問題ではなく、自ら乗り越えなければならない課題である。

小中一貫教育研究会 さつき野学園 視察感想（成果と課題整理）

教職員（組織）に関して	
<b>成 果</b>	<p>教員が9年間の教育システムに理解を示し、前向きに取り組んでいる。</p> <p>5部会を作り会議の効率化を図っている。</p> <p>実際に行っているという自信。</p> <p>9年間を見通した教育ができる（児童生徒理解）</p> <p>児童・生徒に責任を持たせる場所・場面を工夫されている。</p> <p>指導方法の決め方、改善への努力</p> <p>校長先生が一貫教育の信者となりリーダーシップを発揮していた。</p> <p>教育条件整備が充実している（教員定数・教材費）</p> <p>1～9年生のつながりを大切にし教職員の連携が図られている。</p> <p>全教職員の共通理解のため組織がよく工夫されていた（5部会、学年部会、職員会議）</p> <p>養護教育、事務等一人職が複数であり体制が強力。</p>
<b>課 題</b>	<p>第1～第3職員室は共通理解の深まりが心配。</p> <p>教師の持ち時間数の調整（教科担任、乗り入れ）</p> <p>人事異動により小中教職員の意識の統一（毎年）</p> <p>先生の負担が大きく増える？</p> <p>強力なリーダーシップをもつ校長先生の確保と育成。</p> <p>教職員の授業受持ち時間の公平化。</p> <p>教職員の負担（カリキュラム、配慮事項）</p>
カリキュラムに関して	
<b>成 果</b>	<p>授業の始まりを合わせている。</p> <p>9年間を見通したカリキュラムで指導できるので、子どもたちの学びが継続したものになる。</p> <p>中一ギャップがない。</p> <p>高校のパンフレットを教材としている（向上心が望める）</p> <p>小5からの部活動参加</p>
子どもの成長に関して	
<b>成 果</b>	<p>小中一貫教育に対しての保護者の期待度が高い。</p> <p>5年生からの参加による部活動で、心の交流、技能の向上が図れる。</p> <p>自尊感情の向上</p> <p>子ども達が優しく穏やか</p> <p>子どもの表情が穏やかになったと聞く（生徒指導上の改善）</p> <p>上級学年の優しさ、思いやりが育つ。</p> <p>支援の必要な子への配慮が充実する。</p>
<b>小学生</b>	.....

低学年の希望、夢が膨らむ  
 5年生より部活を一緒にやっており、下級生が上級生に憧れを持っている。  
 4・3・2それぞれの会合でリーダーシップをとるようなシステムにしている。  
 導入の効果が出ていた（中一ギャップ、自己有用感の向上）  
 児童・生徒の成長の伸び幅が大きいことを先生が実感。  
 子供の変容（1～6年生）＝意欲と希望の向上

#### 中学生

暴力的な行動無  
 温和な生徒（優しい表情）  
 高学年生の生徒が低学年生に対する規範意識から荒れる子がない。  
 中学生の心が穏やかになる。  
 子供の変容（1～6年生）＝意欲と希望の向上

#### 課題

小学校低学年、きちんと指導しているのか。  
 児童生徒数が少ないのが気になる。もう少し多いとどうなるか知りたい。  
 子どもの変容は、小中一貫教育を実施したことが要因か？（自尊感情）  
 部活動のクラブ数が少ない。

### 施設・設備に関して

#### 成果

特別教室の数が多  
 運動場・体育館が2つある。  
 施設設備も大切、連絡橋（架け橋・つなぐ）  
 小中一貫教育が行いやすい環境。

#### 課題

施設の利用  
 小学生用と中学生用運動場・プール・理科室他施設が2重にいる。  
 空き施設（教室）の管理、活用。  
 施設の中学生サイズ化が必要。  
 施設設備の不具合  
 一体型でないと乗り入れ授業は難しい。

### その他に関して

#### 課題

きつい地域性、校区が広がったらどうなのか？  
 児童生徒数が少ない、4学年が単学級。  
 学年、複数学級、9年間なので学年が上がればクラス替えが必要  
 将来の児童、生徒数減少対策  
 休み時間の子供たちの行動が見たかった。  
 導入背景が不純？（他地域との統合を阻止するため実施）